

## ダニエル書12章1-4節 「終わりの日の報い」

### 1A 苦難からの救い 1

1B イスラエルに対する苦難

2B 書に記されている者

### 2A 永遠の報い 2-3

1B 目覚め 2

1C 永遠のいのち

2C 永遠の嫌悪

2B 輝き 3

1C 賢明な者たち

2C 義に導いた者

### 3A 封じられた書 4

1B 秘められた時

2B 知識の増加

## 本文

ダニエル書 12 章に入ります。10 章の終わりに、主の使いがダニエルに言われたことを思い出してください。「10:21 しかし、真理の書に記されていることを、あなたに知らせよう。私とともに奮い立って、彼らに立ち向かう者は、あなたがたの君ミカエルのほかにはいない。」11 章で見えてきたのは、ペルシアの君、またギリシアの君による、終わりの日に至る大きな戦のことでした。ギリシアの北の王と南の王の戦いを預言して、北の王からアンティオコス・エピファネスの荒らす忌まわしいことが預言され、そしてついに、そのギリシアの王が前触れとなった、終わりの日の反キリストの戦が、11 章の最後に預言されていました。45 節で、「彼は、海と聖なる美しい山との間に、本営の天幕を張る。」とあります。ハルマゲドンに世界の王たちが集結して、それからエルサレムを攻め、天から来られるキリストに対して戦うのですが、12 章では、その渦中にある「あなたの国の人々」の話が始まります。この苦難の中で、いかにダニエルの同胞の民、ユダヤ人たちが救われるのかを話していきます。

### 1A 苦難からの救い 1

<sup>1</sup> その時、あなたの国の人々を守る大いなる君ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。

「その時」とは、今話しました、反キリストを中心とする大きな戦のことです。その時に、イスラエ

ルのために、大いなる君ミカエルが立ち上がります。先ほど 10 章 21 節で読んだように、イスラエルには、大天使、あるいは天使長とも呼ばれる、最高位の天使がついていて、ミカエルと呼ばれました。他の墮落した天使たちは、ペルシアの国を動かし、ギリシアの国を動かしていましたが、イスラエルにはミカエルしかいませんでした。

イスラエルのことになると、どうしても孤立になります。イスラエルが不公平な扱いを受けているので、別にイスラエルが完璧ではなく欠けがあるけれども、ことさらに非難するのはおかしいとして共に立つと、尋常ではない敵意を向けられます。イスラエルの人たちは、いつも、自分たちを守るのは、自分たちを救えるのは自分たちしかいないという、強固な信念があります。なぜそこまで、異様な敵意が向けられるかという、霊の戦いがあるからです。イスラエルを助けようとする大天使は、ミカエルしかいないからです。

黙示録 12 章で、女であるイスラエルが竜、すなわち悪魔に追われるからです。彼女が荒野に逃げて 1260 日の間養われる、とあります。その幻の中で、天における戦いがあります。ミカエルとその使いたちが、竜とその使いたちと戦ったが、竜が勝つことができず、天に持ち場を失って地上に投げ落とされるのです。「黙 12:7-9 さて、天に戦いが起こって、ミカエルとその御使いたちは竜と戦った。竜とその使いたちも戦ったが、8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。9 こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。」それで竜が自分の終わりが近いことを知って暴れるのです。このようにミカエルがイスラエルの救いのために戦っています。

### 1B イスラエルに対する苦難

しかし、かつて神が、モーセを遣わしてイスラエルの民を連れ出そうとされた時に、ファラオがますます、彼らへの労役を増やしたように、ミカエルが戦ったことによって、神の民はますます苦境に陥ります。「国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。」とあります。イエス様がオリーブ山においてお話しになったのはこのことです。ダニエルが預言した「荒らす憎むべき者」が聖所に立つから、ユダにいる人々は山へ逃げなさい、と言われました。そして、「マタ 24:21 そのときには、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。」と言われました。それから、大患難の中で、選ばれた民についてお話になられます。選ばれた民というと、私たちキリスト者も選ばれた者たちではありますが、マタイ 24 章でイエス様が語られているのは、あくまでも、イスラエル人のことです。ユダヤに住んでいる者であるとか、安息日にならないようにしなさいとか、主は言われています。ですから、血肉によるアブラハムの子孫、イスラエル人たちのことをイエス様は話しておられるのです。

エレミヤもこのことを預言して、「ヤコブの苦難」であると表現しました。「30:4-7 【主】がイスラエ

ルとユダについて語られたことばは次のとおりである。5 まことに【主】はこう言われる。「恐れてわななく声を、われわれは聞いた。『恐怖だ。平安がない』と。6 さあ、男に子が産めるか、尋ねてみよ。なぜ、わたしは勇士がみな産婦のように腰に手を当ているのを見るのか。また、どの顔も青ざめているのを。7 わざわいだ。実にその日は大いなる日、比べようもない日。それはヤコブには苦難の時。だが、彼はそこから救われる。」ものすごい恐怖を味わいますが、やはりそこから救われると約束してくださっているのです。ユダヤ人たちが、ローマによって世界に散らされて、とてつもない苦難を歴史の中で味わってきました。ホロコーストが起こり、しかし、その後、二千年近くの悲願、イスラエルの建国が実現しました。数々の戦争を経て、今イスラエルは、強い軍隊もあり、国の経済もしっかりとしており、安定した国になっています。しかし、それでも、神の救いの完成の時まで、苦難が来ることをお許しになられます。現在、ユダヤ人に対する敵意は、ナチスが台頭する前夜ほどになっていると言っても過言ではありません。まだ百年も経っていないのに。軍隊をもってしても、教育をもってしても、苦しみから免れられないのです。それは、神のみが終わりの日に救われることを彼らが知るためです。

## 2B 書に記されている者

そして「しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。」とあります。「あの書」とは、10章の最後に出てきた「真理の書」です。終わりの日に至るまでの大いなる戦が、この真理の書に書いてありました。しかし、その中で賢明な者たちが人々を悟らせ、そして義に立ち返ることも書かれていました。ユダヤ人には、契約を犯し、墮落する者たちも出て来るのですが、人々は剣に倒れたりしながら、なおのこと練り清められることが書かれています。その中で、自分がその真理の書に記されているのであれば、必ず救われるということです。

アンティオコス・エピファネスによる迫害の時に、積極的に神の律法に背いて、その迫害に加担したユダヤ人たちがいたことを思い出してください。そういった者たちを、祭司ピネハスのごとく、刺し殺すことによって反乱を始めたのが、マカバイ家です。同じように、終わりの日には、賢明な者たちと背く者たちをふるいにかける、神の働きがあります。エゼキエル書 20 章にて、イスラエルが再び集められた後に、エジプトから出た民が荒野で裁かれたように、彼らをえり分けることを前もってエゼキエルが預言しています。

20:33-37 わたしは生きている——【神】である主のことば——。わたしは必ず、力強い手と伸ばした腕、ほとばしる憤りをもって、あなたがたを治める。34 わたしは、力強い手と伸ばした腕、ほとばしる憤りをもって、あなたがたを諸国の民の中から導き出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。

彼らが、今、イスラエルの国に集まってきたのは、主に迫害や困難によるものです。欧州でホロコーストがあり、次に建国後、独立戦争が始まったら、アラブ諸国にいるユダヤ人が追放されて集

まってきました。主は、それは、「力強い手と伸ばした腕、ほとばしる憤りをもって」という言葉を使っておられます。

20:35-38 わたしはあなたがたを国々の民の荒野に連れて行き、そこで顔と顔を合わせて、あなたがたをさばく。36 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地の荒野でさばいたように、あなたがたをさばく——【神】である主のことば——。37 わたしはまた、あなたがたにむちの下を通らせ、あなたがたを契約のくびきの下に連れて行き、38 あなたがたの中から、わたしに背く反逆者をより分ける。わたしは彼らをその寄留している地から導き出すが、彼らはイスラエルの地に入ることはできない。そのときあなたがたは、わたしが【主】であることを知る。」

荒野に連れていかれるというのは、荒らす忌まわしい者が聖なる所に立つのを見て、彼らが山々に逃げるからです。黙示録 12 章にあるように、それは同時に荒野です。エドムのボアズに逃げていきます。その一連の困難の中で、主に背く反逆者はえり分けられ、死んでしまいます。イスラエルの地に再び入ることができません。真理の書に名の記された者たちだけが助かり、再臨の主イエスを仰ぎ見て、悔い改めに導かれます。

神に書物があることを知るのはとても大切です。モーセが、金の子牛を拝んだイスラエルの民のために執り成しをしたとき、こう祈りました。「出 32:32 今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださるなら——。しかし、もし、かなわないなら、どうかあなたがお書きになった書物から私の名を消し去ってください。」神の書物に名前がなければ救われることはできません。イエス様は、この書物に自分の名が書き記されていることを最大関心事にしないで、ということを言われました。「ルカ 10:20 しかし、霊どもがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」私たちは、いかがでしょうか？ 私たちが忍耐できるのは、自分の意欲ではなく、主が自分の名をご自分の書に書き記しておられるところにある力にあるのです。黙示録には、何度も「いのちの書」についての約束があります。サルデイスにある教会に対して、「3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。またわたしは、その者の名をいのちの書から決して消しはしない。わたしはその名を、わたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。」とイエス様は約束されました。そして、20 章にある、大きな白い御座には、いのちの書に名の記されていない者たちが、火の池に投げ込まれたとあります(15 節)。

## **2A 永遠の報い 2-3**

### **1B 目覚め 2**

<sup>2</sup> ちりの大地の中に眠っている者のうち、多くの者が目を覚ます。ある者は永遠のいのちに、ある者は恥辱と、永遠の嫌悪に。

復活の約束です。イエス様は、このダニエルの預言にしたがって、ご自身が来られる時に、

ご自身の声を聞いて、よみがえることを語られています。「ヨハ 5:28-29 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞く時が来るのです。29 そのとき、善を行った者はよみがえっていのちを受けるために、悪を行った者はよみがえってさばきを受けるために出て来ます。」

「眠っている」とありますが、これは実際に眠っていることではなく、復活の希望を持っているので死んでいても、それは一時的であることを意味しています。イエス様が「わたしは彼(ラザロ)を眠りから起こしに行きます。」と言われて、弟子たちが「眠っているのなら、助かるでしょう。」と言ったら、はっきりと「ラザロは死にました。」と言われました(ヨハネ 11:11-14)。信じている者が甦る時は「永遠のいのち」すなわち神の国の至福にあずかりますが、不信者もよみがえります。「そして永遠の嫌悪」によみがえるとあります。黙示録には、前者を「第一の復活」を呼んでいます。だから後者は「第二の復活」と呼ぶことができるでしょう。

### 1C 永遠のいのち

黙示録 20 章を開いてください。ここには主が再臨されて、悪魔が底知れぬ所で鎖につながれ、そこから人々を生き返らせることを語っています。4 節から 6 節までを読みます。

4 また私は多くの座を見た。それらの上に座っている者たちがいて、彼らにはさばきを行う権威が与えられた。また私は、イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。彼らは生き返って、キリストとともに千年の間、王として治めた。5 残りの死者は、千年が終わるまでは生き返らなかった。これが第一の復活である。6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対して、第二の死は何の力も持っていない。彼らは神とキリストの祭司となり、キリストとともに千年の間、王として治める。

4 節にある「多くの座」そして「さばきを行なう権威」は教会に対して与えられるものです。コリント第一 6 章には、こうあります。「6:2-3 聖徒たちが世界をさばくようになることを、あなたがたは知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるのに、あなたがたには、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。3 あなたがたは知らないのですか。私たちは御使いたちをさばくようになりませう。それなら、日常の事柄は言うまでもないではありませんか。」ラオディキアにある教会に対してイエス様は、「3:21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。」と約束されています。教会はすでに携挙によって天にいます。携挙の前に死んだ人々は生き返り、生き残っていた者たちは一瞬に変えられて栄光の体を持っています。けれども、「また私は」と言っていて、これら、多くの座とは別に、「イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。」彼らが、患難期に殉教した人々です。黙示録では、携挙の後でも患難の中で、首をはねられる人々がおり、また獣の刻印を

受けないで殺された人々が大勢いることを記しています。これらの人々は、大患難において殉教した人々が患難期の終わりに、主が地上に来られた時に復活します。これによって第一の復活が完了するのです。

第一の復活は、イエス様の復活によって始まりました(1コリント 15:20)。そして旧約時代に神を信じて死んだ者たちが、よみがえっています。(マタイ 27:52-53)エペソ書 4 章には、旧約の聖徒たちがキリストとともに天に昇ったことが書かれています(8-9 節)。そして教会が携挙される時に、教会時代に死んでいった人々が復活します。主が空中にまで降りて来られるのですが、まだ生きている信者たちもいるのです。その人たちは、その姿が復活の体、栄光の体に変えられて引き上げられます。その前に、これまでキリストにあって死んだ人が復活して、彼らとともに引き上げられることを使徒パウロは教えています(1テサロニケ 4:14-17)。そして先ほど読んだ、患難時代に殉教した聖徒たちがよみがえることによって第一の復活が完成します。

## 2C 永遠の嫌悪

不信者のための復活は、先ほど話しましたように、白い大きな御座において、起こります。ですから、眠っている者たちが目を覚ますという、ダニエルの預言ではありますが、そこには時間差があります。主が地上に再臨される時に、第一の復活は完成しますが、第二の復活、不信者たちの復活は、千年王国が終わって、天地が過ぎ去った後に起こるのです。新天新地に入る前に、主が不信者を裁かれるために、よみがえらせません。「黙示 20:11-15 また私は、大きな白い御座と、そこに着いておられる方を見た。地と天はその御前から逃げ去り、跡形もなくなった。12 また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。13 海はその中にいる死者を出した。死とよみも、その中にいる死者を出した。彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。14 それから、死とよみは火の池に投げ込まれた。これが、すなわち火の池が、第二の死である。15 いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。」これが、主の使いがダニエルに伝えた「恥辱と、永遠の嫌悪」であります。

## 2B 輝き 3

<sup>3</sup> 賢明な者たちは大空の輝きのように輝き、多くの者を義に導いた者は、世々限りなく、星のようになる。

## 1C 賢明な者たち

11 章において、マカバイ家の人たちのような人々のことを、「賢明な者たち」と呼んでいました。たと世界が左を向いていても、自分は右を向くというような人々を大空の輝きのように輝かせることと約束しておられます。主にあつて耐え忍ぶことは、困難の中を通ることでした。いろいろなことが

あっても、けれども主は必ず賢明な人々を、大空の輝きのように輝かせてくださいます。イエス様が義の太陽として、神の国で輝かれますが、その輝きを反映して自分自身も輝くようになります。これが、永遠の命の報いです。「マタ 13:43 そのとき、正しい人たちは彼らの父の御国で太陽のように輝きます。」そして、ペテロはこれが称賛と栄光と栄誉であると言っています。「1ペテロ 1:7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。」

マカバイ家の人々が、何をもって現在の苦難を耐え忍ぶことができたのか？それは、主のみこころを行っていくことでした。今は、自分の気持が良ければ、とか、自分が正しいと思っていれば、という哲学が猛威をふるっていますが、そうではなく、自分の気持ちがついてこなくとも、自分が正しいと思っていることとは違っても、それでも神に従順な子として生きることによって輝くのです。ピリピ 2 章に、パウロが、キリストの日の輝くという約束を話していますが、今、ではどうするべきなのかを話しています。「ピリ 2:12-16 こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がいらない今はなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。13 神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。14 すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、16 いのちのこばをしっかり握り、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は自分の努力したことが無駄ではなく、労苦したことも無駄でなかったことを、キリストの日に誇ることができます。」

## 2C 義に導いた者

そして興味深いのは、それら思慮深い人たちは、多くの人たちが神の真理を悟ることができるようにしました。そのように、「多くの者を義に導いた者は、世々限りなく、星ようになる。」ということでもあります。ここから、私たちが単に自分が知恵を持ち、試練に耐え、そして終わりの日に報いを受けるだけではないことが分かります。そのような困難や試練の中でさえ、自分自身がしっかりと堅く立ち、それが、他の人々を義へと導く時に、その報いは非常に大きいということでもあります。

主は私たち他の人に恵みを与えるため、イエス様の恵みを分かち合うために召されているということ。自分自身がイエス様を知るだけでなく、その知った知識によって他の人々がイエス様へと導かれていくということでもあります。そのために、主は聖霊のバプテスマを与えられ、力を受けて、主の証し人となっていくのです。そして、そのことによって自分の報いが、世々限りなく続く星のように報いがあるということです。パウロが、何を喜びとしていて、誇りとしているのか、テサロニケ人への手紙第一で話しています。「1テサロニケ 2:19 私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのは、いったいだれでしょうか。あなたがたではありませんか。」喜び、誇りの冠になるのは、この魂が救われたテサロニケの人々なのだ、と言っている

のです。

そして、「世々限りなく、星のようになる」のです。これはメルヘンチックな、星の王子様のようなものではありません。これまで見てきたように、苦難と迫害の中でなおのこと耐え忍び、そして人々を義としていく中で、それで主に与えられるところの恒久の栄誉ということでありましょう。私たちは、とても短期的な感情を持っています。今この時に、どう輝くかということを探求しています。それで、あることをしてみたり、また別のことをしてみたりします。しかし、星であることは実はそれほど輝かしいものではありません。もっともっと、光り輝いているものはたくさんあります。星は実は、そんな輝いていません。しかし夜空の中で、いつまでも輝いているものです。ですから、神の与えられる報いとは、華々しいものではないということですが、恒久的、いつまでも続くものということです。

それはあたかも、花火の季節、夜空に輝く星のようであるとある人が言いました。花火の華やかさに人々は集まります。そしてそれに対して称賛を向けます。そして花火大会が終わり、誰もいなくなった時に、淋しさが来ますね。けれども、その夜空には星の光が輝いています。花火が上がっていた時には、その光は見る事が出来ません。花火の光で掻き消されています。けれども、そのはかない、僅かしか続かない花火が終わると、その時に再び光が見えて、真価が試されるのです。

### **3A 封じられた書 4**

<sup>4</sup> ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと捜し回る。」

ダニエルは、ここまで真理の書について知らされて、けれどもその解き明かしについては秘めておき、閉じておくと命じられます。なぜか？「終わりの時」に関わることであり、「多くの日の後(8:26)」のことだからということです。でもこの啓示を受けたダニエルは非常にもどかしいです。この後も二度、いったいこれはどうなるのかと尋ねています。けれども、終わりの日に来たら「多くの者は知識を増そうと捜し回る」とありますが、口語訳では、「多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう。」とあります。多くの人が探り調べます。そして知識が増します。歴史が進行するにつれ、そして終わりの日に近づくにつれ知識が増します。

### **1B 秘められた時**

その悟りを与える決定的な出来事が、メシアであられるイエスが来られた時です。福音書そして使徒の働きには、この幸いが数多く書かれています。イエス様が弟子たちに言われました。「マタ 13:16-17 しかし、あなたがたの目は見えているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。17 まことに、あなたがたに言います。多くの預言者や義人たちが、あなたがたが見ているものを見たいと切に願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと切に願ったのに、聞けませんでした。」そしてペテロも、「I ペテ 1:10-11 この救いについては、あな



たがたに対する恵みを預言した預言者たちも、熱心に尋ね求め、細かく調べました。11 彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もって証したときに、だれを、そしてどの時を指して言われたのかを調べたのです。」とっています。キリストが来られたので、神の啓示が完成したのです。そして黙示録の始まりは、「イエス・キリストの黙示」ならず、「イエス・キリストの啓示」であります。そして 10 章には、封印が解かれた開かれた書物を力強い御使いが持っていました。「10:1-2a また私は、もう一人の強い御使いが、雲に包まれて天から下って来るのを見た。その頭上には虹があり、その顔は太陽のよう、その足は火の柱のようで、2a 手には開かれた小さな巻物を持っていた。」もう封じられていないのです。ダニエルの時は封じられていましたが、今の時代は開かれている、いや主が明らかにして私たちに示そうとしておられるということです。

## 2B 知識の増加

ですから、その知識を私たちは、御霊によってしっかりと受けていく、あちこち探り調べ、そして知識が増す、という時代に生きています。パウロの祈りを私たちの祈りにもしましょう。「エペ 1:17-19 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。」